

「「攻め」で意識されているところはどんなところですか」

首藤 成昭

シラス漁が休漁だったので県武道館の朝練に出かけた。
八段の石川先生に稽古をお願いし、後でコメントを聞くと

攻めがないよ
攻めて打たなきゃ駄目だ
と言われる。

声を大きく出し、先に先にと攻めていたつもりですが、石川先生の心には響かず、先生にポツと間合をつめられ、僕が技を出そうとする気持ちや状態を押えられているような感じでした。

僕の方が大きく反応していたと思います。

この体験や日常の稽古を通じ
攻めは相手の心にかに剣先で、気力や体力をともなって「しまった」という驚きや「打って来るのではないか」という疑いをおこさせることだと感じました。

攻めを修得するためには自分より強い相手、強い相手を選んで稽古を積み重ねることだとも思います。